

江戸城かわら版

認定NPO法人江戸城天守を再建する会

令和6年4月10日



CONTENTS

- 1 請願署名は二〇三〇年めどに二〇万筆目標
- 2 令和六年度通常総会を三月一六日に開催
- 3 江戸城寛永度天守再建の「理念」を改訂
- 4 理事の分担をオープンにして会員参加促進
- 5 サムライフェス、著名神社の節分祭で署名
- 6 江戸文化サロン報告/IKIZAMA設立
- 7 江戸城天守軸組模型組立の写真レポート
- 8 名城の天守の会津若松城天守
- 9 黒田源「江戸東京の災害遺構をたどる」③
- 11 会員のひろば/事務局からのお知らせ

請願署名は二〇三〇年めどに二〇万筆目標 それをめざして会員を維持拡大することが緊急課題

二〇〇四年一二月に任意団体「江戸城再建を日指す会」を設立して以来今年で二〇年目を迎えます。ともに二〇年前にスタートした「福岡城・鴻臚館市民の会」とは、手を携えて運動にはずみをつけたというエールの交換を行いました。これからは全国の他の団体とも手を組みながら、運動の幅を広げたいと思います。

ようやくコロナ禍による足踏み状態から通常へ戻りつつあります。いくつか新しい試みが動き出しています。大手門ピラ配り、皇居東御苑散策はもとより、夏休み企画「親子で学ぶ江戸城」

には三八名が参加しました。新たに起用した三名の女性「江戸城アンバサダー」にお城エキスポ(横浜市開催)などに来てもらい若い層の加入にアプローチしました。

二年前から始めた衆議院・参議院両議長に提出する請願署名は、徐々に募集範囲を拡大しつつあります。まずは今年度中に一万筆を達成し、次に二〇三〇年をめどに二〇万筆まで増やし、皇居東御苑に天守を築城する許諾を得ることを目標にしています。

で落ちています。当会の主な財源は会費収入ですので、当NPO法人の存続が危ぶまれています。そこで今年度は理事全員から、自分が招き入れた会員一人一人に新会員を年間一人紹介するようお願いしてもらいます。会員の皆様はそういうお願いがありましたら、よろしくお願いいたします。

「福岡城・鴻臚館市民の会」は、昨年「福岡城市民の会」から改名し、福岡城跡に建てていた古代の外交施設・鴻臚館を名称内に加えしました。隣接する「舞鶴公園」と「大濠公園」を中心に、歴史遺産を守り、伝統文化の普及に協力してこられたことに敬意を表します。

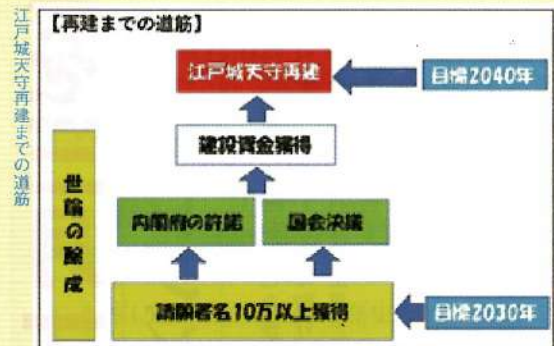
昨年まで三年以上続いたコロナ禍によって運動が停滞した中で、「博多どんたく」関連行事、「文化人・経済人交流会」、「福岡歴史観光市民大学」、「ボランティア・ガイド事業」などを担って



総会冒頭で挨拶する島田理事長

近の高速道路の地下化が予定されていますので、それまでに天守の築城が実現すれば、江戸城跡から日本橋にかけて歴史文化のたたずまいが連続します。

ただし、一方で足元の組織が危機的な状況になっていています。前年末の会員数がとうとう一〇〇人きりぎりというところま



*2040年は日本橋の高速道路地下化完成年です。



福岡城天守台から見た福岡市内

春季号

福岡城・鴻臚館市民の会が 発足二〇周年を迎え 当会とエールを交換

令和六年度通常総会を三月二六日に開催

昨年度は新しい取組に数多くチャレンジ

「江戸城天守を再建する会」令和六年度通常総会を三月二六日、全水道会館（文京区）にて開催しました。会場出席とオンライン出席を併用して開催し、終了後に懇親会を行いました。

参加者の内訳は、出席参加者が五六名、委任状一一一名、書面による議決権行使が四五名（合計二二二名）でした。正会員数三九八名の二割を超えて総会が成立しました。

総会では、期末の会員数が一一〇〇人を切りそうなどころまで減少していることへの危機感に基づいて議論が行われました。理事と推進リーダー（旧支部長）と会員が力を合わせて「会員一人が年間一名の会員を紹介する」ために、会員が非会員を誘って参加できるイベント（散策ツアー等）を増やしてまいります。

令和五年度事業報告

一、主な事業の成果

令和五年度は当会の活性化に向け新しい取組を数多く行いました。ライブ配信アプリ（ミクチャ）を使って江戸城アンバサダー三名を選抜、アニメ風のオリジナルキャラクター「家康くん」を制作、江戸城オリジナル切手の制作、

ジオテクノロジーズ社と共同で行った全国一万人アンケート調査等です。アンケートの結果から再建に対し好意的な意見が多いことがわかったので意を強くしました。

東御苑散策では千代田区観光協会の協賛を得て「親子で学ぶ江戸城」の実施や、JR東海との協業。当会の弱点である女性、若中年、首都圏以外在住者へアプローチしてきました。

二、事業の実施に関する事項

① 会員拡大

会員へ会の動きを細かく提供する「会員掲示板」（隔月刊）を発行するなど、会員とのコミュニケーションにつながる努力をしてみましたが、会員数は年初を下回りました。

② 支部活動の活性化

活動に関心のある会員を活性化するため、オンラインによる支部委員会を月一回開催したほか、四月から支部委員会だよりを発信。七月には夏季リアル会議に三四名を集めました。

③ 広報活動の強化

一月にテレビ番組で菅前首相

が江戸城再建に触れたことがきっかけとなってメディアに取り上げられました。これらを追風として活動を広げました。

また、江戸城アンバサダー女性三名を選抜、家康くんキャラクターを制作する等お城EXPOを活用した新しい手法で若年層へのアプローチを試みました。

④ 江戸城かわら版

年四回発行しました。千代田区観光協会で配布するなど地元との連携を深めました。会員の協力により千代田・中央・港区と東京都の議員および三役に継続して配布しています。

⑤ SNS活用

フェイスブック、X（旧ツイッター）、インスタグラムを定期的に発信しました。YouTubeはオンライン講演や世論喚起活動など一本の録画を公式チャンネルにアップして会員外への広報に活用しました。

⑥ イベント

初めての試みとして「千代田の水辺を魅力ある都市空間に再生する会」との協力により「江戸城水路クルーズ」、千代田区観光協会の協賛を得て「親子で学ぶ江戸城」

を実施しました。MONA MUSICコンサートも継続しました。

▼お城EXPO

請願署名活動、御城印販売に加え、江戸城アンバサダー紹介お披露目を実施。延べ三二名のボランティアに協力をいただきました。請願署名の実績は衆議院五七五筆、参議院五七六筆でした。売上は御城印二六万五〇〇〇円、オリジナル切手とクリアファイルのセット一七万五〇〇〇円でした。

▼オンライン講演

全国お城物語…三期目に入った当シリーズを七回実施、取り上げたお城は、一月から順に大坂城、盛岡城、丸岡城、郡山城、小峰城、福山城、島原城でした。

・江戸城サロン…六月に住友林業…脱炭素化に貢献「ウッドサイクルで「街を森にかえる」を開催しました。

▼江戸文化サロン

会員間交流を目的として発足した江戸文化サロンにおいて「江戸食文化サークル」を一月に実施しました。

三、世論喚起活動

① 請願署名

従来からのイベントの他、新たに神田神社、富岡八幡宮、三ノ輪商店街で署名活動を行いました。江戸消防記念会から組織的に応援賜り衆参合計一一九筆頂戴しま

した。通期実績は衆議院四〇一筆、参議院三七六九筆、合計七七八〇筆でした。

② 御城印等のグッズ販売

イベントでの販売を中心に御城印五〇万五〇〇〇円、オリジナル切手五三万九八〇〇円、クリアファイル三万六〇〇〇円を販売しました。

③ 大手門でのチラシ配布

一月から再開し、新入会の会員などの協力を得て三回実施しました。

④ 江戸城散策ツアー

親子で学ぶ江戸城やJR東海との協業など全部で六回開催し、一四〇名を案内しました。ガイド養成の勉強会や案内資料作成などを行いました。

四、事業構想検討委員会

事業構想検討会の課題の一つに天守再建にかかる木材資源調達があります。六月に、大規模木造建築の技術開発推進に取り組んでいる住友林業株式会社筑波研究所の中嶋技師長を講師に招き江戸城サロン講演会を開催しました。これにより、天守再建が、日本の森林資源の再生と持続的なCO2削減効果をもたらすことの意義につき、会員の認識を新たにすることが出来ました。

理事の退任

令和四年度総会において理事に就任した尾崎理恵さんが今総会で退任しました。頑張っていたことに感謝します。

令和六年度事業計画

一、会員の維持拡大

新入会員個人二〇〇名、法人一〇社を目標とします。会員の減少傾向に歯止めを図ります。また「会員掲示板」発行の継続、会員間交流の推進などにより継続率向上を目指します。

二、請願署名

衆議院、参議院それぞれ一万筆を目標とします。目標達成のためイベント予定の掘り起こし、地元三区対策、他の二〇区への取組、企業団体へのアプローチ等に取組みます。

三、広報活動

マスコミへの広報活動を強化し、政財界マスコミ関係の江戸城再建理解者へ広報します。ホームページなど閲覧数向上策として左記を行います。
・江戸城アンバサダー等を活用するなど、若い世代に当会活動をアピールします。
・デジタル広報部会はホームページの刷新・管理・運営を行います。
・広報戦略部会を新設し広報戦略、広報委員会各部の連携のあり方を検討、広報委員会に提言します。

四、イベント

定着したオンライン講演全国お城物語、江戸城サロンと昨年開始した江戸文化サロンを継続して実

施します。地元三区の各種団体企業と提携しイベントを企画実施し、また当会設立二〇周年企画シンポジウムを開催します。

東御苑散策は会員企画の小グループ散策を実施するほかJR東海、千代田区観光協会との協業拡大を目指します。また一〇名のガイド養成を目標に勉強会、実地研修を行います。

五、組織運営

新入会員を巻き込み活動を活性化する目的で支部委員会を組織運営委員会と改称します。リーダー会議を定期的に開催するほか、組織運営委員会日より(毎月発行、理事・推進リーダー・正会員)、会員掲示板(隔月発行、賛助会員まで全員)をメールで配信します。

六、地域連携

地元三区区役所、議会とのパイプを作り、各種団体・企業・学校等との連携活動によって当会の認知と請願署名活動の促進を図り、法人会員の獲得に努めます。当面は千代田区を中心に進め、順次他区に展開します。

七、事業構想検討委員会

専門的知識に精通した外部有識者を中心とした部会を設置します。

▼事業収支検討部会

事業採算性の見通しと財源調達方式を検討します。

▼伝統文化展示部会

展示コンテンツの基本的考え方とデジタル映像の技術的課題を検討します。

江戸城天守再建の「理念」改訂

当会の江戸城寛永度天守再建の理念を令和六年度通常総会で九年ぶりに改訂し、承認されました。

令和6年3月16日 総会で当会活動の理念を改訂しました 江戸城寛永度天守再建の「理念」



令和の新しい国づくりに向けて 木造の「江戸城天守」を築城する!

日本には、過去の長い歴史が育んできた伝統と文化がある。1657年の明暦の大火で焼失し、台座だけが再建され皇居東御苑に遺されている「江戸城寛永度天守」は日本の木造建築の最高到達点であった。

私たちは、大火後の万治年間に「江戸城寛永度天守」を再建することを意図して築かれた天守台の上に、可能な限り史実に忠実に天守を建設することを目指している。

私たちは、この「江戸城寛永度天守」を、日本各地に広がる香り豊かな純国産の木材を使い、令和の築城として再現し、その美しい立ち姿を世界に向けて発信するとともに、天守内の巨大空間を活用して、縄文以来の日本伝統文化の魅力を、最先端ハイテク技術を駆使したデジタル映像で展示し、その比類ない独自性と底流をなす奥深い精神性を体感することを目指す拠点としたい。それは魅力と活力にあふれた「観光立国・日本」の新しい道しるべになると考える。

これにより、日本の若い世代が、日本人であることそして日本に生まれたことに誇りと自信をもち、日本人としてのアイデンティティを確立し、共有できる思想と文化を創造し、新しい日本の未来に繋げていくことを期待する。

また、純国産木材による江戸城天守令和の築城は、我が国森林資源の循環的利用と木造建築促進の契機となり、二酸化炭素削減効果を通じた地球温暖化対策にも貢献することとなる。

事業の推進に当たっては、台座が遺された皇居東御苑が、静謐で、特別な場所であることと生態系の維持・保全などにも十分に配慮し、広く国民世論にアピールする中で、今後とも各界、各層から寄せられる様々な意見、見解にも謙虚に耳を傾けつつ、粛々と令和の築城を目指し再建運動を進めていきたい。

新しい理念を左に示します。

改訂とはいえ、江戸城寛永度天守再建の目標に変更はありません。平成から令和へ移った時代の変化に対応して、全体的に言葉使いを直しました。

改訂のポイントには江戸城寛永度天守「再建」を、同「令和の築城」と言い換えたところです。

明暦の大火によって焼失した江

戸城寛永度天守を再建するため、加賀前田家が天守台を積み直しました。これが完成した時点で、天守をその上に載せる工程以降が財政難のため延期されました。したがって現在皇居東御苑に遺っている台座の上に寛永度天守が建っていたことはありません。それを踏まえて築城と表現しました。

理事の役割分担を オープンにして 会員の参加を促進

「支部長」から改名した「推進リーダー」に就任を

令和六年度総会では理事の役割分担をオープンにし、また（左の委員会一覧表）。そして会員が興味ある委員会／部会に参加することを呼び掛けました。ぜひ事務局を通してその旨を連絡ください。すでに

組織運営委員会 & 推進リーダー

皆様が開りが深かった委員

「推進リーダー会議」を原則として隔月開催して（オンラインが主）、一月と七月には全体会（リアルが主）を開催します。

「推進リーダー会議」を名乗っていただきます。

会では「支部委員会」を「組織運営委員会」へ、所属する「支部長」を「推進リーダー」へ改称しました。委員会や当会のイベントに参加ください。

令和6年度 委員会

敬称略、1月1日現在

委員会名／部会名	人割(◎:委員長/○:部会長)	
	理事	会員等
財務委員会	◎渡辺、青木	
会員・寄付拡大部会	○木川、岩淵、中沢	
事業構想検討委員会	◎島田、全員参加	
事業収支検討部会	○寺村	外部有識者
伝統文化展示部会	○寺村	外部有識者
コンプライアンス委員会	◎木川、渡邊、土屋	
署名活動委員会	◎田中、森本、吉田、近藤、渡辺、岩淵、塚本	
広報委員会	◎包原、高比良、渡辺	
広告部会	○高山、中沢	
かわら版編集部会	○近藤、包原、木川、黒木、塚本	益満
デジタル広報部会	○寺村、近藤、江澤	立原
広報戦略部会	○木川、高比良、岩淵	
イベント実行委員会	◎木川、高山、近藤、黒木	
講演部会	○近藤、木川、包原、黒木	
名城巡り/ツアー一部会	○田中、黒木、塚本	大藤、花岡、平出
外部連携イベント部会	○近藤、木川、高山、江澤、中澤	
東御苑散策委員会	◎黒木、塚本	鈴木俊
江戸城ガイド養成部会	○塚本、黒木	
組織運営委員会	◎東、近藤	
地域連携委員会	◎高山、木川、吉田、渡辺	
ロータリークラブ部会	○木川、渡辺	

推進リーダー会議の 冬季全体会を開催

推進リーダー会議の冬季全体会（リアル開催）を麹町区民館（千代田区）にて一月二三日に開催し、推進リーダー（二〇名）と理事他（一三名）の合計三三名が集まりました。

太田会長の開講挨拶に続いて、最近の対外的な取り組みについて、それぞれの担当理事から報告しました。

署名活動委員会

署名活動委員会担当の田中副理事長から今年度の目標数値が衆参各一万筆と発表があったので、たいへんやりがいのある目標であると熱心な意見交換につながりました。

事業構想検討委員会

後半、事業構想検討委員会担当の寺村副理事長から「事業採算性の見通しと財源調達方式の

検討」および「展示コンテンツの基本的考え方とデジタル映像の技術的課題の検討」について力が入った説明がありました。両テーマに基づく部会を立ち上げ、外部有識者を招く予定です。



冒頭で能登半島地震の義援金をカンパ



上野公園のサムライフエスに 初出店して署名集め



サムライフ(侍)を共通テーマとするステージショーが上野公園で二月二二日から二五日までの四日間開催されました。海外からのお客様もどつと押し寄せました。

サムライフエス敷地内で当会のテントは入り口を入っすぐ右の好立地にありました。当会会員(推進リーダー)でもあり主催的な立場でもある鈴木智博氏に出店のご縁を取り持ってもらいました。江戸城アンバサダーの楓さんが

初日に、同じく野々宮さんが二日目に応援に入ってくれました。

残念ながら三日目を除いて小雨模様となりました。唯一晴れた三日目には、テント前の通りに陣取った新企画「江戸城クイズ」でしたが、小雨の日にはテント内にて実施しました。衆参両院向けの請願署名は全体で四八〇筆集まり、約半数が三日目の獲得数でした。

「江戸城クイズ」とは、署名

が終わった方々に参加してもらう五問のクイズ企画です。頭の中を署名への協力意向から当会入会への考慮へ切り替えてもらうことがねらいです。

二三日と二五日の夕刻、三分間のトークライブがメイנסステージにて行われ、鈴木氏と総合司会のれきしケン(長谷川ヨシテル氏)に当会の塚本理事が加わって行われました。江戸城再建に関わるよくある疑問について、塚本理事がわかりやすく説明しました。



一日目▼楓さんも応援



二日目▼野々宮さんも応援
小雨のためテント内で「江戸城クイズ」を実施



トークライブ▼塚本一夫理事が加わった
江戸城再建トークライブ

神田明神と 富岡八幡宮の節分祭で 署名集めを実施



二月三日の節分はもともと平安時代の頃に中国から伝わってきた文化で、日本古来の考え方と合わさり生まれたと考えられています。東京における節分祭の有名どころが、神田明神と富岡八幡宮です。今年も大勢の参拝者で賑わっている節分の日、境内に場所を借り、当会は署名活動を行いました。

神田明神では昨年二月から節分祭での署名活動を行っており、神田神社では東京だけでなく、遠方からお越しになる方も多くいます。江戸城アンバサダーの楓さんが応援してくれました。

富岡八幡宮では昨年八月の深川祭りからご縁が続いており、署名には江東区在住の方々が沢山来てくれました。江戸城アンバサダーの野々宮さんが応援してくれました。



神田明神▼楓さんも応援に

富岡八幡宮▶野々宮さんも応援
テントの後ろで「江戸城クイズ」

江戸文化サロン (江戸に学び江戸を楽しむ)

「江戸の食文化」シリーズ 第二回「浅草で味わう江戸前寿司」

第一弾「天ぷら」に続き今回は「寿司」。

三月八日、江戸前寿司を味わえる浅草の老舗「常寿司」にて浅草観光連盟会長 富士滋美さんより「明暦の大火と浅草の発展」を講演いただきました。

「伝説によれば約一四〇〇年前、隅田川で漁師の網にかかった観音像を祀り浅草寺が創建され浅草は宗教的に重要な場所となった。その後江戸の人口が急増、家康が浅草寺を幕府の祈願所に定め参拝客で大いに賑わうこととなった。家綱の時代、明暦の大火で江戸の大半は焦土と化し、江戸城天守も焼失。浅草の空き地が復興建築資材の置き場となり隅田川が資材の運搬に利用され、多くの働く人々のために屋台で天ぷらや寿司を提供するようになった。延焼遮断を目的に広小路が作られ、上野広小路などの地名が今も残る。日本橋にあった吉原遊郭は大火後浅草へ移転。武士や裕福な商人を対象とした遊郭以外に庶民のための見世物、芝居小屋もでき、女性も浅草に行くようになって浅草は栄えていった。」

講演後は江戸前寿司と現代のお寿司と二種類いただきました。

た。「江戸前寿司」とは江戸の前、すなわち東京湾で獲れた魚をネタにした寿司のこと。江戸時代は酢や塩で締めたり煮たりタレに漬け込んだり、生魚に様々な「仕事」を加え日持ちがする工

夫をしていました。「江戸前寿司」はお醤油はつけずに美味しくいただき、参加者一五名は良い気分帰宅の途につききました。

(幹事・岡本篤子記)



第2回浅草の「常寿司」

一般社団法人IKIZAMAの設立趣意

次世代を担う日本人の育成を目的に活動

IKIZAMA



一般社団法人 IKIZAMA に集結する歴史事業家

われわれ有志一同は、この度一般社団法人JEFの組織を受け継ぎ、その活動と実績を重んじ、持続・発展させていくため「一般社団法人IKIZAMA」(イキザマ)と改名します。

混迷を極める現代乱世において、次世代を担う日本人の育成を目的に活動します。

事業においては、歴史・文化へ学びを求めると共に、かつて強い日本を創りあげてきた先人の生き様を一つの歴史と捉え、その意志を刻み引き継いでいくための場を創設します。

また、JEFとの繋がりが深かった「NPO法人江戸城天守を再建する会」の活動を側面より支援します。江戸城再建は日本再建と等しく捉えます。次世代の日本人にとって日本再生への力強いシンボルとなります。

主たる事業

▼IKIZAMA事業

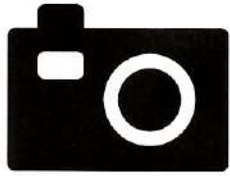
毎回スピーカーを迎え、自身の半生と学びを語り、提言する場づくり。

▼定例会

理事会とは別に隔月開催されるイベント。当会の趣旨に沿った、次世代の育成を主眼としたさまざまなプログラムを用意していきます。また、企業や個人において、当会と志を同じくする方々との連携を実現していきます。

▼収益事業

企業向け、個人向けの各種事業で、IKIZAMAの活動原資となる事業。(例) 社史編纂事業、地域歴史活性化事業など。



江戸城天守軸組模型 組立現場のレポート

中央工学校（東京都北区）の建築倶楽部（担当：渡邊友尚・一級建築士／一級建築大工技能士／木造建築士）に制作を委託している「江戸城寛永度天守」の50分の1の軸組模型。今回写真報告するように着々と進んでおります。4月の新年度から新入部員

を入れて加速する予定です。

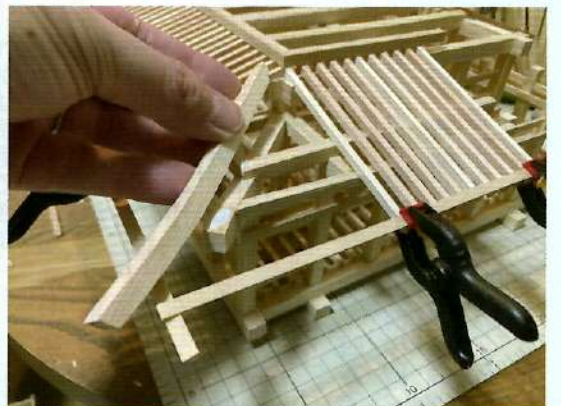
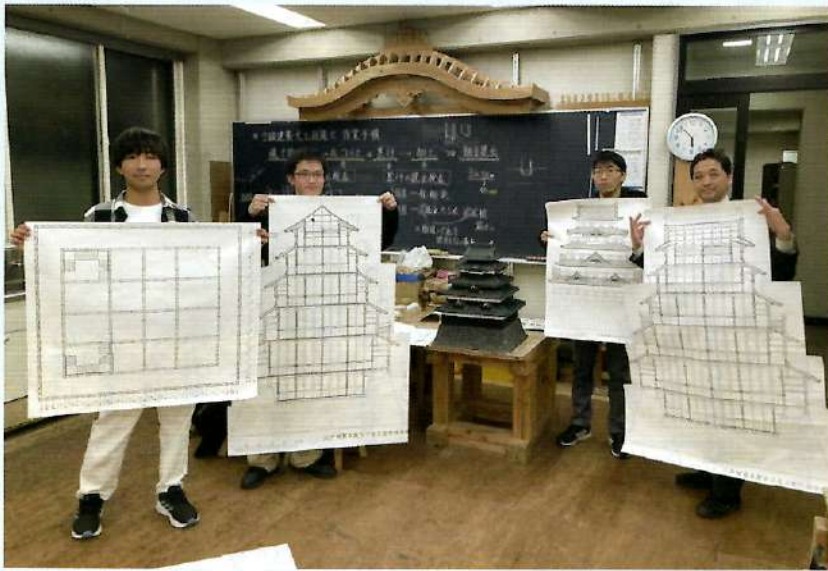
学生は石垣から上へ向かって、渡邊先生は五層目から下へ向かって制作しています。どこか途中の階でドッキングするそうです。石垣と地下の軸組、そして最上階がほぼ完成しました。



2023年9月、長谷川進さん(城郭模型作家・当会会員)の自宅作業室で中央工学校の渡邊友尚先生と学生が訪問して江戸城天守模型を見学



2023年12月、お城 EXPOの当会ブースへ渡邊先生ご一行がお立ち寄り。後列向かって最も右が別府勝先生



天守模型を組み立てている中央工学校の実習室
50分の1の軸組模型が徐々に姿を現しています

歴史に残る名城の天守

第27回 会津若松城天守

三浦正幸
広島大学名誉教授
当会特別顧問

戊辰戦争の集中砲火に耐えた天守

旧国名を城名に冠するのは、同名の城を区別するためである。例えば松山城では全国に著名な三例があるので、伊予松山城・備前松山城・羽後松山城というように旧国名を加えて区別する。これは江戸時代には当たり前前のことであった。ところが、会津若松城という城名は、旧国名ではない会津という地名が冠されていて、全国的に見ても特別の名称である。会津若松城は、江戸時代の公式名称は会津城であり、地元会津藩では若松城と呼ばれることが多かった。別名の優雅な鶴ヶ城も知れ渡っている。

年（一八六八）八月二十三日、新政府軍は会津若松城を包囲すると、城を見下ろす小田山に新式のアームストロング砲を並べて、城に砲弾の雨を降らせた。特に天守は砲撃の照準を合わせ格好の標的となったため、集中砲火を浴びた。明治初期に撮られた天守の写真によると、少なくとも十一発以上の直撃弾を受けており、大棟や鯨を撃ち飛ばされ、外壁や屋根瓦のあちらこちらが損傷したが、致命的な破壊は生じておらず、天守の防弾性能の高さが証明された。なお、着弾で損傷した三階出窓の外壁では、壁下地の木舞が露出して見えているので、木舞が壁の表面近くに作られる太鼓壁であったらしい。砲弾は貫通しておらず、太鼓壁の防弾性能の高さが実証されたと言える。

対しては婦人・少年・老人が城を守って戦ったが、名城の会津若松城は容易には落ちず、結局一か月も持ちこたえた。落城こそしなかったが、明治元年（九月八日改元）九月二十二日に降服した。天守をはじめ櫓・城門等は明治七年（一八七四）に取り壊され、現在は鉄筋コンクリート造の昭和復興天守が建つ。

天守の建築年代と特色

現存する会津若松城の天守台は、豊臣秀吉に九十一万石を与えられた蒲生氏郷が文禄元年（一五九二）に築いたものである。関ヶ原の戦い以前の天守台としては、全国現存最大であった、広さは約三〇メートル×二五メートルもある。豊臣大坂城でさえ二五メートル×二三メートルしかなかったもので、関ヶ原の戦い以前にその天守台の上面全部を用いて天守が建てられていたはずはない。隅に寄せるか、中央部に建てるかであろう。

ところで、明治に取り壊された会津若松城天守は五重の層塔型で、この巨大な天守台の北西隅に寄せて建てられていた。天守台の南側と東側には空き地ができていて、その部位の石垣天端には土塀が掛けられていたのである。また、天守台南側には一段下がって走長屋（多門櫓）が接続しており、そこから天守台へ登ったところに切妻造の天守台入口櫓（平櫓）が建っていた。

天守が隅に寄っていることについては、寛永十六年（一六三九）頃に豊臣系外様大名加藤嘉明の子の加藤明成（四十万石）が蒲生時代の七重天守（望楼型）を五重天守（層塔型）に縮小再建したからと言われている。あるいは、氏郷の天守は慶長十六年（一六一一）の大地震で大破し、明治まで残っていた天守は蒲生秀行（六十万石）が大改修したもので、その際に五重の層塔型に改変されたとも考えられる。当時は「階」と「重」が混

ている。層塔型天守なので、その上階も総て正方形平面であって、各重で四方から一間ずつ整然と通減していた。内部の間取りについては記録がないが、一階の両端間の柱間寸法が一間より長かったので、その幅が一階入側であったと考えられる。

古写真によると、穴蔵の入口は天守台東面に開口し、その中段に太い石梁(現存)を渡して、その下に地下二階へ通じる扉、その上には付櫓の地下一階の白壁が直に載る。したがって、切妻造の付櫓の妻面は、天守台石垣が勾配によって後退する分だけ天端から外側へ突き出していた。付櫓は天守台の地下通路の上を覆って天守本体の一階に接続し、地下通路は天守本体の穴蔵まで通じていた。穴蔵は深く、地下二階になっていたと考えられる。その地下一階は天守台石垣の天端より高く立ち上がっており、いわゆる半地下構造(類例は熊本城小天守・福山城天守・徳川大坂城天守)で、西面では地下一階の立ち上がった外壁に鉄砲狭間を並べて切っていた。また、西面外壁においては、地下一階と一階との境に水切りのために短い腰屋根を付けてお

り、六重天守にも見えた。

天守本体の東・西面には三階(三重目)に入母屋造の出窓、南・北面には二階(二重目)に切妻造の出窓を設け、そのほかに飾りが全くない画期的な層塔型の造形である。清楚で気品が漂う。外壁は漆喰の塗籠で、新式の半

間窓は、名古屋城天守と同じように格子の外側に土戸を引いていた。最上階の五階は、真壁造にして柱や長押は白木とされて格式が高く、また廻縁を設けていた。屋根瓦は、江戸時代後期に凍害に強い赤瓦に葺き替えられていた。



砲撃で大破した会津若松城天守(着色:前田利久)



江戸城クイズ①

「江戸城クイズ」を始めました。皆様、挑戦してください。難問?易問?全問正解なら、かなりの江戸城通ですね。

- 1—長禄元年(1457年)に江戸城を築き、現在も濠にその名を残す者は誰か。
(1) 江戸重継 (イ) 太田道灌 (ウ) 斎藤道三 (エ) 北条早雲
- 2—江戸城天下普請で、慶長11年(1606年)に縄張りを担当したのは誰か。
(1) 加藤清正 (イ) 藤堂高虎 (ウ) 伊達政宗 (エ) 保科正之
- 3—江戸城寛永度天守の焼失後、天守の代わりとなったのはどれか。
(1) 伏見櫓 (イ) 桜田巽櫓 (ウ) 富士見櫓 (エ) 富士見多聞櫓
- 4—次のうち、実子に將軍位を継がせたのは誰か。
(1) 4代家綱 (イ) 7代家継 (ウ) 9代家重 (エ) 13代家定
- 5—初代家康を祀る東照宮や將軍家の文庫が置かれた、江戸城西の丸の丘はどれか。
(1) 吹上山 (イ) 代官山 (ウ) 道灌山 (エ) 紅葉山



※回答は次号でお知らせします。左の天守は江戸城寛永度天守模型です。
出題▶当会理事・塚本一夫 ○江戸文化歴史検定一級○日本城郭検定一級

黒田涼の江戸⑦東京歴史講座 江戸・東京の災害遺構をたどる③

明暦の大火 江戸・東京の基礎を作った大火

昨年は関東大震災から一〇〇年でした。これを機に始めた江戸・東京を襲った大災害紹介ですが、第三回は江戸が壊滅した最大の大火、明暦の大火をご紹介します。

一〇万人が亡くなり、江戸城天守も焼失した大火

明暦の大火は、明暦三年一月一八日から二〇日（旧暦、西暦では一六五七年三月二日から四日）に起きた江戸三大大火の最大の火災です。死者は一〇万人



本妙寺跡の解説板

といわれますが、正確な資料は存在せず、三万人程度だったとの説もあります。

火は遠く離れた三か所から出火しました。最初は本郷の本妙寺付近、次に小石川伝通院下。最後に麹町です。このため当時から放火が火事の原因として有力視されています。

火は北西の強風に煽られて広がり、当時の江戸市街の三分の二を焼き、小石川からの延焼で江戸城本丸・天守も焼失しました。以後の経過は会員の皆様はご存知の通りです。

焼け落ちた門柱？
死者慰霊の寺院

最初の火元となった本妙寺は



本妙寺にある明暦の大火供養塔

現在の東大近く、文京区本郷五一六周辺にありました。寺は一九〇八年に巣鴨に移転し、今は住宅地となって跡形もありません。やや南、寺の跡地ではないので、菊坂から北に登ったところに、文京区教育委員会

の解説板があるだけです。巣鴨の本妙寺には、本郷から移された大火死者の供養塔が現存します。寺には遠山の金さんや千葉周作ら有名な墓も多くあります。

火事では神田川に架かる浅草橋門が閉じられたために多くの人が避難できず、二万人が亡くなったとの伝承もあります。門跡に碑がありますが、近くの初音森稲荷にはすごいものがあります。

浅草橋門の門柱と見られる木



浅草橋門の門柱と見られる木

黒田涼
作家・江戸歩き案内人
当会特別顧問

一階の資料室に巨大な木の柱が置かれています。総武快速線工事の際に地中から見つかったものです

が、明暦の大火時の浅草御門の門柱であると考えられています。表面が少し黒ずんでいます。大量の死者は、当時はまだ街がなかった隅田川の対岸、両国に大きな穴を掘って葬られました。その後その場所に宗派を問わない寺院、回向院が建立され、境内に明暦の大火供養碑があります。戦前は回向院に隣接して国技館がありました。建設の際に大量の骨が出てきたそうです。

四〇〇年近くも前で痕跡が少ない明暦の大火ですが、四谷三丁目交差点角にある消防博物館には、江戸から現在に至るまでの江戸・東京の火事の詳細が展示されています。防災情報なども充実しており、各種消防車やヘリコプターなどもあってお子



回向院にある明暦の大火供養塔

さんでも楽しめます。

防火対策は進んだのか

大火後に幕府は江戸の都市改造を進め、隅田川東岸開発、市街地拡大、火除け地造成、大名屋敷の分散、定火消設置などを進めます。その後も火事は続きましたが、明暦の大火のような巨大火災は無くなりました。明治後期には加圧された水道が普及して火事も激減します。

しかし関東大震災や焼夷弾爆撃のような同時多発火災には対処できず、一〇万人規模の火災死者が繰り返されます。東京都の想定では地震による最悪の場合の死者数は六一〇〇人で、うち焼死者は二四〇〇人です。これを多いと見るか江戸時代よりは少ないと見るか。

都内の木造住宅密集地域は二〇二〇年時点で八六〇〇ヘクタールもあります。決して油断できないのではないのでしょうか。



消防博物館の展示

会員のひろば



◆投稿、提案、
当会イベント情報などを
随時掲載します。

首都に江戸城天守があれば、
世界は注目すると思います

須藤 文夫(埼玉県)

関東に大坂城、名古屋城、姫路城、熊本城に負けない天守閣の城が首都東京にあれば日本も注目されるのではないかと思います。私は歴史に興味を持っており、歴史を辿りながら政治、経済、文化を知ることが大変喜びです。ぜひ江戸城天守を再建する会に触れてみたいと入会しました。

地震大国日本における
天守再建では
耐震対策を忘れずに

新宮 清志(東京都)



先日、江戸城天守を再建する会の総会に出席させて戴きました。天守再建運動の課題や天守再建の理念の改訂など理事長のお話を直接聞くことができた上に、私にも発言の機会を与えて戴いたことは大変有り難いことでした。

さて、私も江戸城天守再建が一日も早く実現することを待望する者です。私は、日本大学でのシエル・空間構造や重層構造の研究を通して各地の地震や津波による被災地の調査・解析にも携わってきました。

それ故、江戸城天守再建においては、耐震性に十分注意を払って行う必要があると思っています。勿論、それは既存の天守台の構造や寛永度天守の設計図に基づいた上で、です。過去には、安政江戸地震(一八五五年)や関東地震(一九二三年)、東北地方太平洋沖地震(二〇一一年)といった大規模な地震が発生していますし、首都直下型地震は今後三〇年以内に七〇%の確率で発生するとも言われています。一旦発生すると、被害は甚大で首都圏に広く及び、江戸城にも例外なく被害が及ぶことも視野に入れておく必要があるでしょう。

折角建てる大事な江戸城天守です。「地震対策万全」もキャッチフレーズにしたいものです。

戦国時代と幕末の
歴史好きで
史跡巡りも趣味の一つです

浦賀 恵美(東京都)

江戸城再建への皆さまの熱意に感激いたしました。戦国時代と幕末史が好きで、本を読んだり史蹟巡りをするのが趣味の一つです。歴史はまだまだ勉強中ですが、みなさんと歴史の話でつながりを持って変遷しいです。活動を楽しみにしております。

事務局からのお知らせ



「請願署名」にご協力ください

二〇二四年は一万筆の請願署名を目標としています。

会員の皆様には、ご家族、ご友人の皆様にも、この請願署名にご協力くださるようお願いしていただき、新規会員の勧誘にご協力を

当会の活動は主として正会員、賛助会員の会費によって運営されています。本年も会員二〇〇名を目標としています。ご協力ください。

住所変更届けのお願い

ご住所・電話番号などが変更した場合、ファクスや電話で早めにご連絡ください。会からのお知らせが届かなかつたりします。

メールアドレス登録のお願い

メールアドレスをお持ちの方は事務局にメールをお送りください。イベント等の情報をお届けします。

会費納入のお願い

それぞれの会員の皆様のご入会前月に次年度の「会費納入のお願い」をお送りしています。「ご協力のほどお願い申し上げます。」

年会費納入法



◆年会費カード決済
会費納入や寄付金の決済は、クレジットカードにも対応しています。カード決済ご希望の方は、当会ホームページからどうぞ。

◆年会費自動払込(ゆうちょ銀行)
自動継続をご希望の方は、H.Pの「カードによる継続会費のお支払い」からお手続きください。

当会では、ゆうちょ銀行口座からの年会費自動払込を行っています。ぜひご利用ください。「ご希望の方は事務局までご連絡ください。申込書をお送りします。」

認定NPO法人の当会への寄付金は税の控除が受けられます。優遇措置を利用してご寄付にご協力ください。

個人法人にかかわらず税制上の優遇措置が受けられます。特に相続での税の控除があります。詳細は当会のホームページで「寄付」の欄をご覧ください。

江戸城天守を再建する会 入会案内



367年前に焼失した江戸城天守を、東京のシンボルとして甦らせたい。そんな思いを共有する人たちが集うNPO法人です。2006年NPO法人設立。当会主催の各種イベントや講演会のご案内をするほか、会報『かわら版』(年4回)をお届けします。

- 会 長：太田資暁 (太田道灌公18代子孫)
- 理事長：島田昌幸 (テレビ東京特別顧問)
- 年会費：正会員 (個人)10,000円
- 正会員 (法人)100,000円
- 賛助会員 (個人)3,000円
- 賛助会員 (法人)30,000円

入会手続
1 ホームページ(クレジットカード)
2 ゆうちょ銀行・払込取扱票
▶詳しくは当会事務局へお問合せください。

※「かわら版」への投稿、提案、お問合せは、事務局宛に郵便・FAXまたはメールにてお願いいたします。

【事務局】
〒101-0065
東京都千代田区西神田 2-5-7-505
E-mail=info@npo-edojo.org
事務局長/浅井純一、山本りか